



松濤園には4棟の展示館があり、それぞれの建物は日本各地から移築、または復元した日本家屋を活用しています。
その周りを三之瀬瀬戸を借景とした日本庭園が囲み、散策しながら歴史に触れることができる文化施設です。



朝鮮通信使の派遣が決まると、釜山から外洋船である朝鮮通信使船6隻で瀬戸内海を通り、大阪まで航行します。江戸時代には、船の旅というものは大変危険を伴うもので、天気が良く、風向きのいい日を選んで出航していました。その後、淀川を京都まで上るために、西国大名が参勤交代の時に使用する、絢爛豪華な川御座船で進み京都の淀に向いました。そして淀から陸路を江戸まで行列を組んで歩いて進みました。広島県呉市下蒲刈島も潮待ちの港として、また広島藩の接待場所として指定され、全部で12回の来日中11回立ち寄った歴史があります。

本展では朝鮮通信使の旅の半分を占めた船の旅に焦点を当て、さまざまな記録より江戸時代の船の旅をご紹介します。



「朝鮮通信使大坂河口之図屏風」紙本着色

朝鮮通信使の旅

朝鮮通信使資料館

御馳走一番館

陶磁器館

継承 古九谷と鍋島

肥前・有田の地で江戸時代初期に誕生した日本最初の磁器である伊万里焼。はじめ、青一色で彩られる染付磁器が生産されていましたが、1640年代に大胆な構図とカラフルな古九谷様式と呼ばれる色絵磁器が生産されるようになります。約10～20年間という短い期間での生産にもかかわらず、その特徴的な意匠は多くの人々を魅了しています。その後、1660年代頃から海外輸出へ力を入れるようになることで、色絵磁器の生産は繊細で優美な柿右衛門様式へと移行していきました。

しかし、この古九谷様式の意匠は途絶えることなく、伊万里焼最高峰の鍋島へと継承されました。将軍や公家などへの贈答品として生産された鍋島の器は、一級の職人たちの手によって生み出され、江戸時代の間生産されていきます。

本展では、所蔵品の中から古九谷と鍋島の名品を選びすぐり、その軌跡をたどります。



左「色絵南瓜文輪花皿」古九谷様式・1650-60年代
右「青磁染付大根文小皿」鍋島様式・1670-90年代



あかりの館
山口県上関町から移築した商家を利用して、世界の灯火器を展示しています。



蒲刈島御番所
江戸時代、この下蒲刈にあった御番所を上関に現存している建物を参考に復元しています。

文化と歴史の祭典

- 第21回 朝鮮通信使再現行列
10月15日(日)
出発式 10:45～ 下蒲刈市民センター(パレード出発地点)
- 秋の茶会
11月11日(土)・12日(日)
協力：上田宗箇流 会場：松濤園内 蒲刈島御番所



写真は例年の様子

周辺施設のご案内

- 近代日本画壇の名品が、本格的木造建築の中鑑賞できます。
蘭島閣美術館
広島県呉市下蒲刈町三之瀬200-1 ☎0823-65-3066
2023.9/2(土)～10/29(日)
特別展 『村上海賊と蒲刈島』
- 小高い丘の上に建つ、洋画家・寺内萬治郎の常設展示館。
蘭島閣美術館別館
広島県呉市下蒲刈町三之瀬195 ☎0823-65-2500
2023.8/2(水)～11/13(月)
所蔵品展II 『寺内萬治郎の油彩画』
- 京都洋画壇の巨匠、須田国太郎の常設展示館。
三之瀬御本陣芸術文化館
広島県呉市下蒲刈町三之瀬311 ☎0823-70-8088
2023.10/26(木)～12/18(月)
特別展 『今井眞正 土から生まれる命の輝き』

交通 Access
広島市内から車で約60分
呉市内から国道185号線を竹原方面へ。安芸灘大橋(有料)を渡って最初の島が下蒲刈町です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用ください。駐車場から松濤園まで80m。
指定施設にて1,000円以上ご利用の方に安芸灘大橋の帰りの通行券を進呈！詳しくは、くれ観光情報プラザ TEL.0823-23-7845まで。



呉から電車とバス
JR呉線で広駅または仁方駅で下車し、駅前最寄りのバス停留所から瀬戸内産交株式会社バス「田戸・大浦・當農センター・沖友天満宮方面」行きに乗り。下蒲刈町内「三之瀬」停留所下車。停留所から松濤園まで100m。バスに関するお問い合わせ 瀬戸内産交株式会社 ☎0823-70-7051